

令和7年度 第2回図書館協議会会議録

日時：令和7年11月19日（水）

午後2時00分～午後2時50分

場所：聖籠町立図書館 会議室

出席：本間敬委員長 土田清絵副委員長 高橋静子委員 島村優里委員

臼井政之委員 宮野久美子委員 渡辺まゆみ委員

欠席：西村美紀委員 手嶋涼委員

事務局：宮澤館長 諏江副参事 佐藤係長司書

1 開 会

（事務局） 出席予定者が揃いましたので、只今から「令和7年度第2回図書館協議会」を開催させていただきます。

（委員長） = あいさつ =

2 議題

（1）令和6年度図書館評価（案）について

（2）視察研修について（意見交換）

（委員長） それでは、「（1） 令和6年度図書館評価（案）について」を、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局） = 「（1） 令和6年度図書館評価（案）について」資料No.1 及び資料2により朗読説明 =

（委員長） 事務局から説明いただきました。
委員の皆様から意見ご質問ありますでしょうか。

= 意見なし =

（委員長） よろしいですか。ご意見ご質問ないということであれば、この計画（案）についてご承認をお願いいたします。

承認される方は挙手をお願いいたします。

＝ 全員挙手（承認）＝

（事務局） 令和８年度図書館評価における「各委員の評点平均点」の基準変更を提案します。

先般開催された正副委員長会議で委員長からご提案がありました
が、現行基準では、評定平均 2.8 点以上が A 評価となります。これ
により、A 評価者が多数（例：A 評価 6 人、B 評価 3 人）でも、平均
点が 2.7 点となり B 評価になってしまうケースが発生しています。

多数派の意見をより反映させるため、A 評価の基準を平均 2.7 点
以上に引き下げるものであります。

（委員長） 委員の皆様から意見ご質問ありますでしょうか。

＝ 意見なし＝

（委員長） よろしいですか。ご意見ご質問ないということであれば、この変更
（案）についてご承認をお願いいたします。
承認される方は挙手をお願いいたします。

＝ 全員挙手（承認）＝

（委員長） それでは、「（２）視察研修について（意見交換）」をしたいと思います。
参加されなかった委員もおりますので、先進地視察の報告とし
て、小千谷市「ホントカ。」について、参加された委員の皆さまから
ご感想をお話してください。

（委員） 建物や隣接する商店街を含め、街全体を活性化させることに重点が
置かれている印象を受けました。

「みんなが集い、まちが元気になる」という未来志向のコンセプト
が強く感じられました。

本の整理や配置といった図書館機能の充実はこれからの課題に見え
ました。

聖籠町の図書館とは、運営において重視している点が異なると感じ
ました。

(委員) 旧小千谷総合病院跡地という立地で、越後三山や信濃川を見渡せる眺望が非常に魅力的であります。

街の中心に位置し、街のビジョンがそこに集約されていると感じました。

「どうすれば人が集まるか」という発想が設計の根底にあり、屋上をイベントスペースとして活用できるなど、建物の構造自体に工夫が凝らされています。

「ホントカ。」は、イベント開催を重視した設計で集客を図っています。

屋上はスケートボードも利用可能で、眺望が非常に良いです。

施設内では常に催し物が開催できるようになっており、出店のハードルが非常に低いです。

1 平方メートルあたり非常に安価な料金で出店や活動が可能です。

これにより「行けば何かやっている」という期待感を生み出しています。

個人が焼いたクッキーや手作り品を販売することが可能で、口コミで評判が広がっています。

喫茶店が併設されており、購入したコーヒーを図書館内に持ち込んで飲むことが許可されています。

「ホントカ。」は、高価な設備と利用者の快適性を両立させる空間設計が特徴であります。

利用者は自ら机を持ち込み、好きな場所で読書ができるなど、自宅のように寛げる雰囲気があります。

テーブルやガラスなどの設備には多額の費用が投じられています。

正面のガラスは1枚1千万円で、日本で製造できないため中国で製作されたそうです。

設計者の強いこだわりが反映されています。

イベント開催時の騒音を懸念する声に対し、静かに読書したい人向けの専用エリアが設けられています。

そのエリアには1脚60万円の1人掛けソファが設置されています。

2階に位置し、施設全体を見渡しながら静かに読書ができる構造になっています。

「ホントカ。」は、複合施設として多様な機能を有し、「まず人を集める」という思想で設計されています。

図書館の建物以外にも、ライブハウスのような施設、3Dプリンターが複数ある「ものづくりコーナー」、非常に豪華な「子供の遊び場」などが併設されています。

これらの魅力的な施設でまず集客し、そのついでに本を借りてもらうという発想に基づいていると考えられます。

この運営モデルは、利用者に高い倫理観が求められるため、長年の話し合いを経て実現した理想的な形であると思います。

このような集客を重視した明確なビジョンと練り上げられた計画があれば、同様の成功が可能かもしれないと思います。

聖籠町の図書館は、建設当時の町のコンセプトや思いに基づいて建てられており、「ホントカ。」とは根本的なコンセプトが異なります。

「ホントカ。」は「集客」を最重要視し、街の中心部という立地条件にも恵まれています。聖籠町の図書館はそうではありません。

聖籠町の図書館は、本好きが明確な目的を持って来館するケースが多く、まずその利用者層を満足させる必要があります。

立地的に「ついでに寄る」という利用動機が生まれにくい点、どの要素を参考にすれば活性化に繋がるかを見極めるのは困難であると思いました。

(委員) オープンして1年少しの「ホントカ。」について、外観、立地、内部の設備の一つ一つに圧倒され、素晴らしいと感じました。

特に、可動式の書棚を動かして生まれる広大なスペースをイベント用に貸し出している点に驚きました。

配付されたパンフレットを読み、中越大震災からの復興の思いや、市民との対話を経てこの図書館が作られた背景を知り、市民の思いが詰まっていると感じました。

視察から戻り、聖籠町の図書館の「ぶどうの形のライト」を見たときに安心感を覚え、「町の宝物だ」と改めて感じました。

(委員長) 「ホントカ。」は、三条の図書館と同様の複合施設ですが、市の特色が反映され、力を入れる点が全く異なります。

聖籠町の図書館との決定的な違いは、利用者が自由に集い、過ごせる点と、中央の広いイベントスペースの存在であります。

「ホントカ。」は、図書館の一般的なイメージである「静寂」を選択せず、「にぎやかに過ごしてよい」というコンセプトで作られています。

一方、聖籠町の図書館は開館11年が経過し、入館者数・利用者数が減少している課題を抱えています。

この課題解決のヒントを得るという視察目的からすると、前提条件が違いすぎるため、残念ながら参考にならなかったと思います。

ただ、新しく面白いコンセプトの施設を見学できたこと自体は、わくわくする嬉しい体験でありました。

新しい施設の見学も有益ですが、今後は聖籠町の図書館と類似した

状況にある古い図書館でありながら、利用者を維持・増加させるための具体的な取り組みについて学べる視察先を選定することを提案したいです。

(事務局) 投じられた費用よりも、開館 1 年で蔵書数 15 万冊以上の規模にもかかわらず、司書が 2 名しかいない点に最も驚きました。

利用者の倫理観に委ねる運営方針であり、職員は子供や大人の利用状況をほとんど見ていないとのことでありました。

市民との対話を通じて「自分たちの図書館」という意識が醸成されているため、この運営が成り立っている可能性があります。

一方で、管理という側面から見ると「肝が冷えた」と感じ、同じことを聖籠町で実施するのは絶対に不可能だと思います。

聖籠町では、視察先の図書館ほど頻繁ではないが、「まず人を集める」という考えに基づき今年度「としょフェス」を実施しました。

地元の出展者（ワークショップ）なども含めた大規模なフェスティバル形式で、1,500 人以上の来場者があり、開館以来最大規模のイベントとなりました。

この成功は、現在の職員数に加え、ジャパンサッカーカレッジ、地域学校協働本部、スポネット聖籠という 3 つの共催団体の協力があった初めて可能になりました。

今後、安全で魅力的な集客イベントを継続するためには、建物の力だけでなく、人的資源（職員数）の確保が圧倒的に重要であります。

もし図書館の人員が削減されれば、同様のイベントは実施不可能になると思います。

(事務局) 「ホントカ。」は、複合施設として人に来てもらうことを最優先に設計されているという印象を受けました。

図書館機能については、貸出・返却が端末で自動化されています。

このような効率化・機械化は大規模施設ではやむを得ないが、人口 1 万 4 千人程度の町では、カウンターでの人的交流が図書館の価値の一部であると考えられます。

人と人が触れ合う機会まで機械化することには疑問を感じます。

展示方法に関しては、手作りで工夫を凝らしている自分たちの図書館の方が誇れる点であり、むしろ外部から見に来てほしいレベルだと感じました。

(事務局) 「ホントカ。」の施設は新しく、ホテルのフロントのような都会的

なイメージです。

人を集めるためのイベント企画は非常に巧みで、集客施設としては優れていると思います。

一方で、図書館としての機能には疑問点が見られたと思います。

例えば、本棚の陳列方法に違和感があり、本を探しにくいのではないかと感じました。

「ホントカ。」は、中心市街地活性化という目的のために作られた複合施設であり、補助金の組み合わせを考慮した結果、良い図書館を作ること自体が主目的ではなかったのではないかと思います。

(委員) 視察報告を聞き、子供を連れて行ったらどう感じるかという点で、個人的な興味が湧きました。

しかし、図書館協議会の委員として視察に行くのであれば、やはり自分たちの図書館と類似した施設の方が学びが多いのではないかと感じました。

(委員長) 「ホントカ。」の遊び場は非常に素晴らしいものでありました。

聖籠町でも屋内遊び場の計画があるが、視察先と同レベルの施設を建設するのは不可能だろうと推測されます。

(委員) 当初、町の図書館は 3 階建てで映画館やイベントスペースを併設する構想がありましたが、予算の制約で現在の 1 階建ての形になった経緯があります。

また、防災機能を兼ねた図書館を目指していましたが、当初の構想からすると残念な点もあります。

しかし、現在の形で地域住民から愛されていることは、非常に良かったと思います。

(委員) 視察には参加できなかったが、話を聞いて雰囲気は伝わりました。

新発田市の複合施設内にある図書館と比較して、新発田市在住の友人が「聖籠の図書館の方が落ち着いて大好きだ」と言い、利用者カードを作って頻繁に借りに来ています。

このエピソードから、施設の目的はそれぞれ異なるが、図書館としては聖籠の図書館が素敵であると再認識しました。

(事務局) 今後は、聖籠町立図書館と類似した状況の図書館が、どのように利用者を維持・増加させているかを学べる視察先を選定し、コンセプト

が近い施設との情報交換が有益であると思います。

(委員長) 全体を通して委員の皆様から意見ご質問ありますでしょうか。
よろしいでしょうか。

= 挙手なし（意見なし） =

3 その他

- ・令和8年度の目標設定について、令和8年5月下旬の第1回協議会で協議します。

以上